



## 1. 熱海市土石流災害義援金 — 台湾米山学友会 —

7月に発生した熱海市土石流災害への義援金として、台湾米山学友会が385,000台湾ドル（日本円で150万3,906円）を寄付してくださいました。

この義援金は、日本政府が台湾へ提供したワクチンへの感謝の気持ちを込めて、熱海の被災者に役立てて欲しいと学友たちが出し合ったもの。7月29日に台湾からいったん当会へ送金され、8月2日付で当会から国際ロータリー第2620地区の災害支援本部の口座へ振り込みました。また、これとは別に、複数の米山学友が会員として所属する台中文心RCからも、日本の相模原中

RCを通じて同災害への義援金を送金したとのこと。台湾米山学友から届く温かな支援に心から感謝を申し上げます。



## 2. 2022 学年度奨学生の募集を開始

来年4月採用の新規奨学生募集が始まりました。各地区の米山記念奨学委員会が選定し、当会選考・学務委員会と常務理事会の承認を経た指定校は、全国で563校（前年度576校）。指定校からの被推薦者数は1,804人（同1,894人）で、この中から新規奨学生約600人が選ばれます。今回、初指定校は19校。また、5地区が例会に通える範囲の地区外の大学を指定。大学・大学院以外を対象とする地区奨励奨学金は、12

地区（同13地区）32校（同32校）となりました。各地区委員会では毎年、大学説明会や担当者との懇談を行い、事業の目的に合う多様な人材を採用しようと努力しています。当会からは8月6日に、全指定校に宛ててメールで通知しました。指定校からの応募締切は例年通り、10月15日となります。

※指定校一覧、募集要項・申込書式は、当会ホームページにて公開しています。

## 3. 寄付金速報 — 2021-22 年度のスタート —

2021-22年度の最初の月となる7月の寄付金は約2億1,000万円でした。前年度と比べて約7.02%減（普通寄付金：4.09%減、特別寄付金：13.9%減）、約1,600万円の減額となりました。

過去には2億円に満たなかった年度もあった中、このコロナ禍にも関わらず、ロータリアン

の皆さまから多額のご寄付をいただきまして誠にありがとうございました。米山記念奨学事業は、日本のロータリーが世界に誇る「ロータリー日本国内全地区合同プロジェクト」です。今年度も引き続きご支援を賜りますよう、よろしく願いいたします。

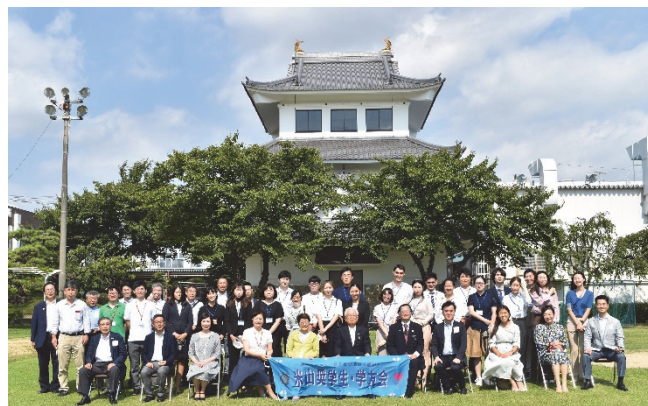
## 4. 2年ぶりの企業見学会 — 第2760地区 —



第2760地区(愛知県)の米山奨学委員会では7月22日、地区内企業への見学会を2年ぶりに実施し、今年度奨学生と学友が参加しました。

地区米山記念奨学委員長の大橋均氏によると、この企業見学会は同地区恒例行事の一つ。昨年は中止となり、今年も直前まで開催を迷いな

がらも、受け入れ企業側の協力を得て、午前3班、午後3班と計6班に分かれて工場や記念館、ショールームなどの構内施設見学を行ったということです。「米山奨学生たちが目を輝かせて喜ぶ姿を見ると、やって良かった」と、大橋委員長は語りました。



## 5. オンラインで奨学生体験発表会 — 第2530地区 —

第2530地区(福島県)米山学友会が主催する「奨学生体験発表会」が7月31日、オンラインで開催され、奨学生と学友、ロータリアンら総勢約90人が参加しました。

当日は、志賀利彦ガバナー、武島昭良米山

奨学委員長、チンタカ・クマール同地区学友会会長、当会柚木裕子事務局長の挨拶につづき、奨学生がそれぞれ「奨学生生活を通じて身に付いたもの」、「日本人はなぜ麺をすすって食べるのか?」、「人工知能の現在と未来」

など思い思いのテーマで発表。学友からは自身の近況報告もあり、参加したロータリアンは興味深く耳を傾けました。

チンタカ会長は「今回は2年ぶりに、オンラインではありましたが、開催できて良かったと思います。いずれまた以前のように集まって、奨学生・学友が母国料理を作り、ロータリアンたちにふるまいながら交流の時間を過ごせるようになれば」と、話しました。



第3回米山学友による世界大会「再会 in 関東」開催決定!

日程: 2023年8月5・6日 ※2年後です/場所: 茨城県つくば市/主催: 関東10学友会  
詳細が決まり次第、当会ホームページでお知らせしてまいります